

令和3年度第1回宮古市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和3年11月25日(木) 午後6時から午後8時まで

2 場 所 イーストピアみやこ2階 多目的ホール

3 協議事項
アフターコロナの教育施策について

4 出席者(8名)

・構成員

宮古市長	山本 正徳
宮古市教育委員会教育長	伊藤 晃二
宮古市教育委員会委員	荒谷 榮子
宮古市教育委員会委員	橋本 美紀
宮古市教育委員会委員	平井 亮吉
宮古市教育委員会委員	杉本 裕樹

・副市長

宮古市副市長	桐田 教男
--------	-------

・事務局からの出席者

総務部長	若江 清隆
企画部長	菊池 廣
市民生活部長	松舘 恵美子
保健福祉部長	伊藤 貢
産業振興部長	伊藤 重行
都市整備部長	藤島 裕久
上下水道部長	大久保 一吉
議会事務局長	下島野 悟
教育部長	菊地 俊二
教育委員会総務課長	中屋 保
学校教育課長	小林 満
生涯学習課	
副主幹兼社会教育係長	里見 正人
体育振興係長	小林 康弘
文化課長	伊藤 眞

5 傍聴人 一般：16名

令和3年度第1回宮古市総合教育会議 議事内容

次 第	発言者	内 容
1 開会	菊地教育部長	ただいまから、令和3年度第1回宮古市総合教育会議を開会いたします。私は教育委員会事務局教育部長の菊地と申します。会議に入るまでの間、本日の進行を務めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、会議の開会にあたりまして、山本市長よりご挨拶を頂戴いたします。
2 市長挨拶	山本市長	本日は大変お忙しい中、宮古市総合教育会議に教育委員の皆様を初め、関係者の皆様、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。これまでも宮古市の教育の発展のために、教育委員の皆様と様々な協議をしてきました。これからもこのような場を設けて議論をしていきたいと思っております。さて、新型コロナウイルスの影響により、教育現場においては様々な対応を迫られているところです。子どもの学校生活においてもこの新しい生活様式、基本的な感染予防対策、学びの方法も問われています。またITを通じたデジタルの勉強をしていかなければならない状況です。そしてどのような支援方法が良いか考えています。本日の議題ですが、報告事項4件、今まで我々が議論してきたことをこの報告を通して具体的にしていきたいと思っております。また、協議事項は1件です。これからのコロナ禍後の教育について皆様と議論を交わしたいと思っております。今日も活発な意見交換をどうぞよろしくお願いいたします。
3 教育長挨拶	菊地教育部長	ありがとうございました。それでは次に、教育委員会を代表いたします。伊藤教育長から挨拶をいたします。
	伊藤教育長	本日はご参加いただきましてありがとうございます。今、市長からお話がありましたとおり、昨年から今年にかけて、コロナの影響により子どもたちを取り巻く状況が変わってきました。しかし、今年は授業に遅れがなく、学校行事を含めて比較的スムーズに進んでいます。修学旅行についても、今年は4月の早い段階から校長先生方が様々な工夫をしつつ、旅行業者と調整しながら順調に進んでいます。まだ、修学旅行を実施していない学校についても、今年中に実施する計画で進んでいます。運動会や文化祭などの準備に長時間かかった行事も、規模を縮小したことによって、準備時間の短縮になり、スムーズに開催できました。この経験を踏まえて各学校では、来年度の教育課程に向けて様々な調整を進めることと思っております。本日は、各部長さんからも教育について多面的な内容のご意見がいただければありがたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
4 議事 (1)報告	菊地教育部長	それでは本日の協議に入りたいと思っております。議事の進行につきましては、宮古市総合教育会議運営要領第4条の規定により、

		山本市長に、議長をお願いいたします。
	山本市長	はい。それでは、私のほうで会議の議長を務めさせていただきたいと思っております。議事の進行につきましてご協力をお願いいたします。それでは、次第に沿って協議を進めます。初めに報告事項の一つ目、総合教育会議の協議事項に関する取組と成果について、報告をしていただきます。それでは教育委員会事務局より説明をお願いいたします。
	中屋総務課長	教育委員会事務局総務課長の中屋と申します、よろしくお願いたします。本日の報告でございますが、これまで開催された総合教育会議でテーマとして取り上げました協議事項の中から、次の4つの事項につきまして取組と成果を報告いたします。 1、学力向上の取組について、2、奨学金制度について、3、スポーツ・レクリエーションの振興に係る各大学との連携について、4、崎山貝塚縄文の森ミュージアムの事業促進についてです。この4つの事項につきまして、配布しています資料に沿って各担当からご説明させていただきます。初めに学力向上の取組について、学校教育課長が説明いたします。
	小林学校教育課長	学校教育課長の小林と申します。よろしくお願いたします。私のほうから学力向上の取組と奨学金制度について、説明いたします。初めに学力向上の取組についてです。これまでの総合教育会議において、①子ども一人ひとりの学力を把握、学力の基本となる国語・算数の定着を図ること、②思考力・判断力・表現力を育成すること、③社会の中で生きていける学力を育むこと、についてご意見をいただいております。これらの意見を受けまして、資料に記載している取組を行っております。取組の成果といたしまして、まず一つ目、小学校低学年における学力の基礎基本を身に付けるために、放課後学習支援員及び放課後学習支援補助員を配置し、学習支援を市内全小学校に拡充しております。学力の把握につきましては、標準学力検査（CRT）の実施により、把握に努めております。調査結果から小学校低学年において、国語・算数ともに全国と同等の力が身につけていると捉えております。また、学力及び豊かな心の育成に向け、読書活動の充実に取り組んでおります。図書支援員11名を各中学校区に配置し、読書環境を整えるとともに、読書活動の充実を図っております。これらの読書の継続が支えとなり、国語の力が身につけていると捉えております。令和3年度には山口小学校がこれまでの読書の取組の実績が認められ、子どもの読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞しております。次に、社会の中で生きていける学力を育むことにつきましては、教科横断的な学びの充実を図るために、各校で実施している総合的な学習の時間の支援を行っております。特に実

		<p>際に児童生徒が体験を通して学ぶことが大切なので、水産体験や農業体験など、市の関係課や関係機関と連携して活動の充実に努めております。児童生徒は、大変意欲的に探究活動に取り組んでいると捉えていますし、学校で丁寧に指導していただき感謝しております。また、スクールバスの活用支援につきましては実施することにより、探究等の活動時間が保障され、効果的な体験活動になっていると捉えています。最後に課題についてです。算数、数学、英語につきましては、学年が上がるにつれて全国との差が大きくなっております。特に思考力・判断力・表現力を育成するために、今後GIGAスクール構想による教育のICT化を進め、実践研究を進めたいと思います。また、宮古の次代を担う児童生徒に対し、津波防災・水産体験など、宮古市ならではの体験活動に関するカリキュラム等の検討をしていきたいと考えております。続きまして、奨学金制度について説明いたします。これまでの総合教育会議において、①市民にわかりやすい形での運用とすること、②勉強したい学生をみんなで応援する制度とすること、について意見を頂戴しております。これらの意見を受けまして、資料に記載しているような奨学金制度の取組を行っております。取組の成果といたしましては、奨学金の増額や月16万円の特別奨学生制度の新設が挙げられます。こちらは、ほかの奨学金と比較しても大変手厚い支援となっておりますので、利用する学生が増えてきています。奨学金利用者に対しましては、併せて定住化促進奨学金返還免除制度についても説明をしております。奨学金についての相談等で来庁した方々に対しましては、進学者向け地元就職応援ナビチラシというものを作成して配布しております。QRコードを読み込んでいただくと、宮古下閉伊地域企業ガイドブックや産業支援センターのホームページ等につながっていて、地元就職に向けて役立つ情報や制度をまとめた手引となっております。これらの制度につきましてはホームページやSNS等を活用しながら広く周知を図っております。最後に課題についてです。コロナ禍ということもございますので、今後も経済的な理由により修学機会が損なわれることがないように、制度の継続を図っていくとともに、無理のない償還に向け、丁寧に相談や対応をしていきたいと思っております。以上です。</p>
	<p>小林体育振興係長</p>	<p>生涯学習課体育振興係長の小林と申します。よろしくお願いたします。私のほうからスポーツ・レクリエーションの振興に関わる各大学との連携について、説明させていただきます。総合教育会議のご意見としていただいている部分は、①健康寿命の延伸に係る取組の実施が重要であること、②指導者の育成において定期継続が大切であること。③大学と連携し取り組むこ</p>

		<p>とで動機づくりを実践すること、でございます。取組について、主な大学との取組の部分を挙げております。①②については日本体育大学との取組です。③については青山学院大学との取組です。成果には、市民における健康づくりにおいて、大学の専門的な知識を活用した実施が可能となった、とあります。こちらは、日本体育大学との取組における教授からの提言で、宮古市健康長寿を実践するための五か条を制定し、市民の方に配布しております。健康寿命の延伸について専門的な知識を皆様に示し、目安としていただく取組を行っております。なお、教授に健康遊具等の選定の提案もいただいております。現在都市公園に健康遊具等を多く設置しております。続きまして、選手指導者の育成において競技力の向上についてですが、日本体育大学の方にお手伝いいただきまして、スポーツ少年団の指導者、保護者等にメンタルトレーニング、スポーツ傷害の予防、スポーツ栄養学の講演会を実施し、知識の蓄積を図りました。これにより指導者、選手の育成に力を入れております。成果では、全国のトップレベルの選手との練習やレースに参加する、という点が挙げられます。こちらは、青山学院大学の陸上部の方々に、サーモンハーフマラソン大会に参加していただいております。今年度は、青山学院大学の監督と東洋大学の監督のつながりから、東洋大学の方々にも参加していただきました。児童生徒等からすれば、ハイレベルな走りを見られるという部分において、意識の高揚が図られたと思います。今後の課題です。大学との連携についてですが、今までは実際に日本体育大学から講師を呼んでいましたが、コロナ禍ですので、オンラインを活用した定期的な講習会の開催を検討することが考えられます。指導者の資質向上、人材確保という部分でも、継続して講演会等を行うことで指導において大切な資質の向上を図ってまいります。以上です。</p>
	<p>伊藤文化課長</p>	<p>文化課長の伊藤と申します。よろしくお願ひいたします。崎山貝塚縄文の森ミュージアムの利用促進について報告いたします。これまでの総合教育会議では、①利用促進のためのPR活動を充実すること、②国道45号沿いに施設看板を設置すること、③郷土愛を育む学習内容を取り入れること、との意見をいただいております。これらのご意見を踏まえ取り組んだ内容としては、毎月各種講座や企画展を開催したり、浄土ヶ浜ビクターセンターなどへの出張展示のほか、連休等に合わせたイベントを開催いたしました。加えて令和2年4月からミュージアムのフェイスブックを開設しております。また、ご指摘のあった施設看板を設置したほか、地元小中学校ボランティアとの連携を図った取組を行い、縄文まつりは例年崎山地区周辺の皆さん</p>

		<p>と一緒に開催しております。これらの取組による成果は、市民参画による崎山貝塚縄文の森公園を維持し、地元小中学校との交流を続け、地域学習を継続することが出来ていることです。</p> <p>また、コロナ禍での移動制限を受け、様々な活動が制限される中、これまでのPR活動が相まって、県内小中学校の修学旅行の受入れが増加しております。今後の課題としては、コロナ後のPR戦略としてデジタル技術を活用した取組を増やしていくことが必要と感じています。ミュージアムのフェイスブックでは小学生、ボランティア、土偶、雪、苔に関連する投稿への反応が良く、また市や関連機関によるシェアが有効となっておりますことから、これらを生かし、加えて千徳城跡のぶらり散歩のような、ユーチューブ動画を増やしてまいります。そのほかでは、崎山貝塚縄文の森ミュージアムと北上山地民俗資料館と岩手県立水産科学館の3館連携によるPRを一層図り、また若い世代のボランティアを増やしていくことが必要であると感じております。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。それでは学力向上の取組について、質問、意見等も含めて発言をお願いします。はい、荒谷委員さんお願いします。</p>
	荒谷委員	<p>はい。学力向上について、コロナ禍において子どもたちは、勉強する意味を見失いがちになっていると感じるので、そんな子どもたちに、勉強は夢をかなえるために必要である、ということをお教えることが重要と考えています。子どもたちにとって、今が意識改革をするうえで、本当に大事な時期だと思います。子どもたちの学びをしっかりとさせる。学力向上のために、教育委員会や学校に対する協力、支援、教材の準備等があると思いますけども、意識を変えるためにも、どんどん発信していかなければならない時期だと思っています。以上です。</p>
	山本市長	<p>はい、橋本委員さんお願いします。</p>
	橋本委員	<p>はい。学力向上の取組の成果に上げられているCRTが全国平均と同等がとてもよかったと思います。先生方のお力もさることながら、放課後学習支援員を全小学校に配置することが出来たことが要因として大きかったと思います。今後さらに拡充して、高学年や中学生も対象としていくとなったとき、人員が不足するようであれば大学生や主婦など、人生の先輩方の活躍の場としてお力になっていただく方法もあるのかなと思います。先日、学校公開でタブレットを利用した授業を拝見しました。生徒たちが上手に使いこなしている様子は頼もしかったですし、生徒たちはすごいなと思いながら拝見しました。ICT機器の活用の将来性や子どもたちのポテンシャルの高さに驚かされました。また、ICT機器だけではなく、紙やプリントを切</p>

		<p>ったり書いたり張ったり折ったり、メリハリをつけて利用する といいのかなと思います。社会の中で生きていける学力を育む という点では、特に子どもたちは教室外での体験活動が好きな ので、例年の体験場所に新規の場所を加えてはどうでしょうか。 例えば、先日教育委員会で伺った刀匠の方であれば、実際に職 人気質を感じたので、子どもたちにもそういう話が聞かせるこ とができると思います。ほかにも、花輪にはタルトタタンにイ チゴを出荷している農家があるようです。子どもたちも今まで にはない体験場所もプラスすることで、人が働く意味、価値、自 分の道、宮古の未来について何か感じてくれると思います。以 上です。</p>
	山本市長	はい、平井委員さんお願いします。
	平井委員	<p>はい。橋本委員がおっしゃったことに類似しますが、商業につ いても子どもたちに学んでほしいと思います。売り買いだけで なく、仕入れから利益、他店との格差、廃棄、お客さんの気持 ちになるのは小学生が分かりやすいかと思います。大人になれば 大型店やチェーン店に目が行くので、地元小売業の動きも子 どもたちに学んでほしいと思います。また、子どもたちの車送 迎が多い点について意見です。30年ほど前はどんなに遠くても 歩いて登校していました。スクールバスの活用も良し悪しだ と思いますが、基礎体力が落ちている気がします。知人の話か ら体育の時に転んで骨折した子の話も聞いたので、運動不足に よる基礎体力の低下が原因ではないかと思いました。授業の買 い物体験で魚菜市场に来る子どもたちについて、町なかの子 どもたちは自ら話さずに指をさして買おうとする子が多いです。 それが、市の中心から離れたところから来る子どもたちになる と、臆せず店員と会話して買い物が出来ます。このような面 においては、各家庭で学ぶべき事が学校任せになっているのでは ないかと感じます。以上です。</p>
	山本市長	はい、杉本委員さんお願いします。
	杉本委員	<p>はい。ICT機器の活用について、これから実践に向けて動い ていくと思います。どんどん研究を重ねていただいて、少し でも早い時期に活用が広がればいいなと思います。また、教員の 指導力向上について、児童生徒の学力向上のためにも、間違い なく重要な部分だと思っております。コロナの時期で非常に大 変な時期だとは思いますが、先生方の指導力向上にも環 境を整えていける取組ができればいいと思っています。以上で す。</p>
	山本市長	はい、伊藤教育長お願いします。
	伊藤教育長	<p>はい。学力向上の課題として変わらないのは、学年進行に従っ て、特に中学3年生のレベルの数学と英語の伸びが極端に遅い</p>

		<p>という点です。高校入試の結果の点数を見たときに、岩手県の全体の合格者の平均点、不合格者の平均点で特徴的なのは数学と英語の低さです。この件については、毎年の課題であると言われていいますので、杉本委員がおっしゃったICT機器の活用を広げていくことが大きなポイントだと思います。岩手県では、このあと5年間をかけて、ICT機器の活用に関する先生方の研修等を実施していくことが決まっています。橋本委員がおっしゃったとおり、子どもたちは本当に覚えが早いです。ですから先生方の指導方法によっては、今まで学力の定着率が低かった子どもたちも興味を持ってやれると思います。特に特別支援の子どもたちは、とても興味関心を示していますので、今後のICT機器の活用については、大変大きな意義があると思っています。以上です。</p>
	<p>山本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。それでは、私のほうから少し話をさせていただきます。学力向上に関しては、私が市長になった時から10年間をかけて力を入れてきたことです。何事も途中からいくら頑張ろうとしても、基本が出来ていないとうまくいきません。積み重ねが大事なので、小学校の低学年に力を入れているのが現状です。ここから学年が進むにつれてもっと生かしていくためには、荒谷委員が言ったように、自分がなぜ勉強しているのかを理解し、自分の夢のために頑張っている意識が大切なのだと思います。つまり、受動的で学ぶと学力向上は難しいので目的意識、目標、夢が必要なのだと思います。それは学校だけでは育たないので、家庭や社会も応援しなければならないと思います。そして、我々行政側は何に力を入れればいいのか、何を求めているかを考えていきたいと思っています。これは自分の押し付けになるかもしれませんが、市外で生活・勉強してきてもいいけども、最終的には自分が生まれ育ったところに戻ってきてもらい、みんなで社会をつくりたい、というのが私の夢です。そのためにも、みんなで宮古にどんな仕事があるかを教えていけるようにしていきたいと思っています。それでも、市外へ飛び出して行く人もいますので、それはそれでいいと思います。子どもたちが何も知らないで自分たちの地域を飛び出すのではなく、我々は生まれ育った地域のことを教えた上で、市外で暮らしたいという子どもたちを送り出す。そういう意味で教育を考えていきたいと思っています。そのためには、当然ながらしっかりとした学力をつけないと、自分の夢も叶えられなくなってしまうので、我々は子どもたちにしっかりとした学力がつくようにサポート、指導していくことが必要だと思います。また、それに関連して、学校の先生たちが教育しやすい環境をつくるのも我々の仕事だと思います。こ</p>

		<p>れからコミュニティスクールの考え方が重要になるので、学校だけに任せるのではなく、我々もできるところは協力する、ということが大事だと思っています。現場で直接子どもと関わって教育に向かう人、それをサポートする人など、様々な人が関わって子どもたちが育てていけるようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。それでは次に、奨学金の制度について、質問、意見等も含めて発言をお願いします。はい、杉本委員さんをお願いします。</p>
杉本委員		<p>はい。奨学金に関して、成果を見ても利用者が増えていることは非常に良い事だと思います。当然、貸付金額の増額が理由の1つかと思いますけども、非常にいい事業の取組だと思っています。また、地元企業の理解を深める「進学者向け地元就職応援ナビチラシ」の作成については、私も地元の企業の一人として、未来のある子どもたちが魅力を感じることができる企業をつくっていきたいと思っていますので、是非とも協力させていただきたいと思っています。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、平井委員さんをお願いします。</p>
平井委員		<p>はい。奨学金については、娘の進学に併せて、ぜひ活用させていただきたいと思います。個人の思いとしては、手続きを簡素化していただければありがたいと思います。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、橋本委員さんをお願いします。</p>
橋本委員		<p>はい。奨学金制度について、取組が広く周知されたことが利用者増加の大きな要因だと思います。また、ほかの地域に比べても手厚い制度であることは、皆さんも宮古市民でよかったと思っています。無理のない償還は今後の課題で難しいところだと思いますが、奨学金を利用した保護者や子どもたちにも寄り添って、制度を継続していくように進めていただければ良いと思います。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、荒谷委員さんをお願いします。</p>
荒谷委員		<p>はい。奨学金制度について大変素晴らしいものと思っています。皆さんの意見と同じように、利用者の増加は良い結果だと思います。今まで出会った人や教え子で、進学する力があり、今後も学びたいのに進学することが出来ないという状況も見ているので、この奨学金の在り方は本当に大事だし、これからも続けていくべきだと思います。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、伊藤教育長をお願いします。</p>
伊藤教育長		<p>はい。宮古市の奨学金制度は県内でも1番進んでいる制度だと思っています。特に定住化促進奨学金返還免除制度についても非常に理解が進んでいますし、利用者も増えています。これについて1番の要因は市長のスローガンである、安定した仕事を持って子どもを幸せに育てられる町、だと思います。今の高</p>

		<p>校3年生を対象にしたアンケートでは、宮古に住みたい、1度は市外に行くけど戻りたい、宮古で仕事がしたい、との意見がありました。仕事の職種は医療福祉やサービス業が多く、第1次産業は少ないのですが、やはり定住化をすることで奨学金の返還が免除される制度があるということは、すごくインパクトがあるのだと思います。お金の面で保護者に負担をかけないようにする、といった意味でもとてもいい制度だと思いますので、ぜひ継続しながら、我々もPRしていきたいなと思っていました。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。皆様からこの奨学金制度について評価をいただき、私も嬉しく思います。経済的な理由で自分の人生が制限されたり、希望する学校で学ぶことができないということが無いように、みんなでカバーし合うというのが奨学金だと思うので、このような制度をつくらせていただきました。小林課長、今年度は奨学金の免除制度を利用して、宮古市に就業している人は何人いますか。</p>
	小林学校教育課長	<p>今年度の利用者は19名です。仕事の種類は公務員や地元企業となっております。昨年度に比べて利用者は増加しております。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。帰省したら実質的には給付型の奨学金になるのであれば、全ての奨学金を給付型にしてもいいのではないかと、という考え方もあると思います。しかし、奨学金も宮古市の税金であることを考えると、宮古に帰ってきた人へ給付したいという思いがあります。不公平だという意見もあるかもしれませんが、対象を日本国内とするならば国が、県内とするならば県がこのような制度を作ればいいと思うので、我々は宮古市に帰ってくる子どもたちを対象にこのような制度を作っています。私は高校生を対象に講演する機会もあるのですが、その際には、「宮古市では奨学金を用意しているので、自分の現状で入れる学校に進学するのではなく、目的を持って大学や専門学校に行きなさい。」という話はしています。進学をするうえで目的意識は非常に大事だと思っています。なので、私は途中で目的が変わったら進路を変更しても良いと思います。奨学金制度は子どもたちの学びを支援する制度なので、これからも状況に応じて改良していく必要があると思います。この制度を継続するうえでの我々の課題は、自主財源をどうやって見つけるかという点にあると思います。一生懸命に勉強している子どもたちを応援するためにも、しっかりと課題を解決して制度を継続したいと思います。また、この奨学金制度の他にも、医師や看護師を目指している子どもたちには、別の奨学金を用意しています。このような制度を小中学校生にも伝えることで、自分の夢に向かって頑張ろうという希望が出てくると思います。</p>

		<p>それでは次に、スポーツ・レクリエーションの振興に係る各大学との連携について、質問、意見等も含めて発言をお願いします。はい、平井委員さんお願いします。</p>
平井委員		<p>はい。私は、ラグビースクールに指導者としても活動しています。私が指導者として関わり始めた10年程前までは、強めの言葉で叱ることもありましたが、今の指導方法は褒めることがメインで、強く叱ることは少なくなったように感じます。そのかいもあって、ラグビースクールに通い始めた頃はラグビーに怖いイメージをもって固い表情をしていた子どもたちも、慣れてくると表情も柔らかくなって楽しんでいる様子が見られます。そんな楽しんでいる子どもたちの表情をみると、指導者としても本当にうれしく思います。そんな活動を続けていると、宮古版のスーパーキッズも出来ないかなと思うこともあります。宮古市には様々なスポーツ少年団があるので、スポーツが苦手な子どもたちを集めて、様々なスポーツを体験させることで新たな特性を見つけることもできると思います。また、幼い時に様々なスポーツを経験することで、スポーツに対する苦手意識もなくなるのかなと思います。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、橋本委員さんお願いします。</p>
橋本委員		<p>はい。今後の課題として、オンラインの講習を検討しているとのことでしたが、競技によって講習しづらいものもあるので、VRの活用もニーズに合わせて取り入れてはどうか。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、杉本委員さんお願いします。</p>
杉本委員		<p>はい。先日、岩手県の内陸で行われていたマラソン大会の高校の部で、宮古の中学校のOBの選手がとても活躍したようです。私は、毎年サーモンハーフマラソン大会を拝見して刺激を受けていますが、そのOBの選手も恐らくサーモンハーフマラソン大会を見て刺激を受け、憧れを抱いて、今があるのかなと思っています。そのように考えると、サーモンハーフマラソン大会は子どもたちにとって、非常にいい影響を及ぼしているのだと思います。今後もそのような子どもたちが活躍できればいいなと思います。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、荒谷委員さんお願いします。</p>
荒谷委員		<p>はい。宮古市の各大学との連携について、とても素晴らしいと思います。これからも継続をお願いします。コロナが落ち着いたら新規の大学との連携も期待したいと思います。今年度のサーモンハーフマラソンでも、参加した大学の選手がかっこいい走りをしていたので、この走りを見た子どもたちは、良い刺激を受けたと思います。以上です。</p>
山本市長		<p>はい、伊藤教育長お願いします。</p>

伊藤教育長	<p>はい。サーモンハーフマラソン大会をはじめ、駅伝やマラソンに関心を持っている方は多いと思います。宮古市でもランニングを趣味としている方もいますし、生涯学習の観点からもサーモンハーフマラソン大会が与えている影響はすごく大きいです。大学の連携については日本体育大学、青山学院大学、東北学院大学と協定を結んでいます。そして、地元の岩手県立宮古短期大学部、早稲田大学応援団、岩手県立大学、岩手大学など、様々な関わりがありますので、今後も大学とは多面的にネットワークを組めれば良いなと思っていました。スポーツの合宿で宮古に来てもらえるというのも、スポーツ振興の面で大きなメリットになりますし、誘致にも力を入れつつ大学との連携を強化したいと思います。以上です。</p>
山本市長	<p>はい、ありがとうございます。特に東日本大震災以降、各大学の被災地応援活動がきっかけで広がったと思います。小さなきっかけから始まった繋がりですが、今となっては子どもたちにとって良い刺激になっています。そして、子どもたちだけではなく我々の刺激になるので、本当にありがたい事だと思いますし、これからも繋がりを大事にしたいと思います。よろしくお願いします。それでは次に、崎山貝塚縄文の森のミュージアムの利用促進について、質問、意見等も含めて発言をお願いします。はい、橋本委員さんお願いします。</p>
橋本委員	<p>はい。取組を拝見したところ、工夫された企画が毎月たくさんあって、地域の方との交流が活発に行われているようなので、継続してこれからも取り組んでほしいと思います。今年は北海道北東北縄文遺跡群が世界遺産に登録されたこともあり、縄文ブームが来るのではないかなと思っています。岩手県は、土偶の出土数が日本一で、遮光器土偶の7割は岩手県から出土しているというように、縄文の文化についても関係が深いと思います。このような話題に乗って、崎山貝塚縄文の森ミュージアムもイベントしてはいかがかと思いました。以上です。</p>
山本市長	<p>はい、杉本委員さんお願いします。</p>
杉本委員	<p>はい。開設された崎山貝塚縄文の森ミュージアムのフェイスブックについては、私も楽しみに見させていただいておりました。最近では、ユーチューブでも多く配信されているので楽しみにしております。今後も時代に沿った形で、様々なものを使ってPRに励んでいただければ良いなと思っています。以上です。</p>
山本市長	<p>はい、平井委員さんお願いします。</p>
平井委員	<p>はい。私は体験を通して子どもたちを引きつけるのが良いと思います。縄文の森公園では、焼き場の提供のみならば許可が不要とあったので、例えば、骨付き肉を焼いて食べれば縄文時代の雰囲気を味わうなど、堅苦しくなく子どもたちが学べるよう</p>

		にすれば利用数が増えるのではないかと思います。以上です。
	山本市長	はい、荒谷委員さんお願いします。
	荒谷委員	はい。崎山貝塚縄文の森ミュージアムの魅力について、建物も素敵ですけども、私は建物内に足を踏み入ると大昔の声が聞こえる、そういうロマンを感じます。コロナ禍にあって、不特定多数の来館者への対応に苦勞するかと思います。コロナ対策を徹底してたくさんの人を呼び込んでほしいと思います。市内の小中学校、高校も含めた子どもたちに、是非一度は行ってほしいと思っています。以上です。
	山本市長	はい、伊藤教育長お願いします。
	伊藤教育長	はい。縄文の森貝塚縄文の森ミュージアムにつきましては先ほど伊藤課長の説明があったとおり、県内の小中学校の修学旅行が県内だったことで、現在は見学者が増えております。水産科学館も同様です。これを利用して、今後は修学旅行の受け入れについてもPRしていく必要があるだろうし、地域の歴史文化を知る上でも拠点になります。この施設の特徴は、他には無いほどの施設が複合しているところです。埋蔵文化財センター、崎山貝塚縄文の森ミュージアム、崎山出張所、崎山公民館が合築しているので、非常に使い勝手が良いと思います。今後ともコロナ禍の後は、新規の集客も含めてリピーターを増やしてほしいと思います。文化財保護審議会等からも、もっとPRしながら運営してほしいという意見がありました。北上山地民俗資料館を含め文化面や観光面に力を入れたいと思っていました。千徳城の動画のPRをしたように、歴史文化についてより多くの人に知ってもらいたいと思います。以上です。
	山本市長	はい。ありがとうございます。崎山貝塚縄文の森ミュージアムは、私が教育委員だった頃に行って、様々な体験ができて面白かった記憶があります。また、文化課では他にも千徳城の刈り払いやPR動画の撮影など、多くの人に興味を持てるような活動をしています。これにより子どもたちが興味を持って、文化について楽しく勉強できるので良いことだと思います。ちなみに伊藤課長、千徳城の映像はどこで見ることができますか。
	伊藤文化課長	はい。ユーチューブや崎山貝塚縄文の森ミュージアムのフェイスブックで見ることができます。
	山本市長	ありがとうございます。皆様も是非ご覧ください。同じような発想で、崎山貝塚縄文の森ミュージアムもPRしていけば利用数が増えると思います。続きまして協議に入ります。アフターコロナの教育施策について、教育委員会事務局より説明をお願いいたします。
4 議事 (2)協議	小林学校教育課長	はい。それでは初めに、学校における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、ご説明いたします。初めに基本的な

		<p>考え方と取組についてです。宮古市におきましては、文部科学省から示されております、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルに沿って取組を徹底しております。このマニュアルを踏まえ、宮古市新型コロナウイルス感染症対策の対応について作成し、状況の変化等に応じて改訂しながら感染症対策の徹底を図っております。各学校においては、校長先生の指導のもと、基礎的な感染予防対策の指導や換気の徹底など、対応していただいております。学校の先生方には心から感謝している状況でございます。また、感染症拡大の状況及び市内児童生徒の発生時の対応については定例の校長会議、もしくは状況によっては臨時校長会議を開催し、取組の徹底を図っております。発生時の対応の方法等につきましても、校長先生から情報を提供していただき、全員で共有して取り組んでいる状況でございます。児童生徒に感染が確認された場合は、宮古保健所や市保健福祉部と情報を共有し、対応についての協議など、臨時休業措置及び学校再開に向けた取組を行ってまいりました。感染拡大時の学びの継続については、オンライン学習を含めた学校のICT化を進めるため、ガイドラインを作成し、現在も取組を続けているところでございます。続きまして、具体的な取組について、いくつか説明いたします。学校生活の衛生用品の整備については、手指消毒液、A Iサーマル感知システム、非接触型体温計、空気清浄機等の設置を進めているところでございます。学校の感染予防については、教職員のワクチン接種、衛生用品の準備等に関して、保健福祉部や危機管理課などの関係各課のご支援をいただきながら進めております。現在は、発熱した子どもたちと通常の子どもの接触を避けるために保健室をカーテンやパーテーションで区切ることや、別室の待機場所を確保することを進めております。今年度の2学期に感染が広がったときには、危機管理課に協力をしていただき、避難所用のベッドやパーテーションを借用して緊急配備を行いました。学校行事等については、先ほど教育長が説明したとおりでございます。部活動については、感染状況を踏まえ練習試合、合同練習の実施方法等に関して中体連事務局と確認しながら進め、今年度は全国中学校総合体育大会にも宮古の子どもたちが参加することが出来ております。今後の感染拡大防止の取組を継続しつつ、安全安心な学びの環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。</p>
	伊藤文化課長	<p>続きまして、教育委員会所管施設における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、ご説明いたします。基本的な考え方と取組については公民館、市立図書館、市民総合体育館、市民文化会館、崎山貝塚縄文の森ミュージアム、北上山地民俗</p>

		資料館において、同じ考えの下で取り組んでおります。各施設においてコロナ対策のための設備の改修、備品の整備を行い、手指消毒の徹底、事前の体温のチェック、ソーシャルディスタンスの確保に合わせた利用制限を実施しております。また、現在は政府及び業種ごとのガイドラインに沿って対応しております。特に施設利用の入場時、退場時の混雑を避けるための工夫として、入場整理券の発行、会場内での一方通行の設定、お帰りの際のブロックごとの誘導など、できる限り接触を避ける取組を行っております。コロナ対策を講じながら、ルールをもって施設の利用ができていくという現状となっております。
	中屋総務課長	続きまして、教育委員会が行った新型コロナウイルス感染症拡大対策の支援について、ご説明いたします。初めに就学援助でございます。収入が減少したことなどにより経済的理由で就学が困難な児童生徒に対しましては、適当なときに迅速に支援できるように、通年で申請を受け付けて対応してまいりました。また、感染者や濃厚接触者となり、出席停止措置となった児童生徒に関しましては、学習支援費を支給し、支援してまいりました。次に奨学金制度でございます。収入の減少などにより、家計が急変した学生を支援するための制度を拡充いたしまして、奨学金が必要となった学生を追加で募集するなど、通年で申請を受け付けて対応してまいりました。また、保護者の収入減少や学生本人のアルバイト収入の減少などによって、修学継続が困難となっている大学生等につきましても支援金を支給し修学が継続できるよう、現在も支援しております。文化芸術の分野につきましても、相談窓口を設置し、文化芸術活動の継続や活動機会の確保に繋がるようにしています。以上です。
	山本市長	はい、ありがとうございます。質問、意見等も含めて発言をお願いします。はい、荒谷委員さんお願いします。
	荒谷委員	はい。今年はコロナ感染予防をしっかり対策を行って、市内の学校公開研究会に参加することが出来ました。待ちに待った公開研究会でしたので張り切って参加しました。校舎内は全員マスク着用、校内のあらゆるところに消毒液の設置、常時窓を開放しての換気の徹底、中には扇風機を稼働させて空気の流れを作っている学校もありました。コロナ感染対策をよくなされており、学校の努力に私は拍手を送りました。子どもたちが下校した後も、校舎内のあらゆるところを消毒している先生方の姿を想像し、見えないところでの苦勞も感じています。学校では校長先生のリーダーシップのもと、子どもたちのために頑張っているのを感じました。それから、教室に入って授業を受ける子どもたちも100%マスクを着用していました。マスクを着用しながらでも、きちんと挙手、発言をしている姿を見て、子

		<p>どもたちは本当に順応していくのが早いと感じました。マスクの次に目に飛び込んで来たのは、1人1台のタブレットです。はじめての光景にとっても驚きましたが、子どもたちは慣れた様子で楽しそうに操作していました。私は1人1台のタブレットを見て、タブレットを苦手とする先生は上手く活用できるのだろうか、授業のどの場面で有効な活用ができるのか、これで学力が向上するのか、ということについて心配になりました。これらについて解決するためにも、各学校で効果的な活用方法について研究が進められていることと期待しているところです。タブレットは新しい指導の方法になると思いますが、授業の中では、先生が言葉で褒めること、赤ペンでいっぱい花丸をつけるなど、教育の基本を大切に、人間としての温かみのある学校であってほしいと願っています。11月8日に沖縄県多良間村交流事業として、リモートによる交流についての案内をいただいて、田老第一小学校、山口小学校、多良間小学校の3校をZOOMミーティングで繋ぐ学習を参観してきました。初めて見る光景だったので、何もかも新鮮で感動を覚えてきました。多良間村との交流は長く続いているところなので、途切れさせたくない思いは皆さんお持ちだと思いますので、リモートを使う交流も大変有意義だと思います。ICT機器の活用について、準備と子どもたちの事前指導と学校の苦労があるかと思いますが、これもまた新しい教育のやり方ということで、ご紹介させていただきました。以上です。</p>
山本市長		はい、橋本委員さんお願いします。
橋本委員		<p>はい。学校における対策についてですけれども、約2年間で感染対策も日常化し、初めて感染者が出たときから様々なことが変化しながら今に至っていると思います。感染が広がり始めた初めの頃は、感染者の特定をしないじめ、差別、中傷の的としていたときもありましたけれど、これからはそういうことがないことを信じたいです。教職員のワクチンの優先接種についてですが、単身赴任で週末に内陸に帰られる先生もいらしたと思うので、早く接種ができて良かったと思います。ワクチンを無駄にすることもなく、有効な策だと思いました。部活動については、早く自由に活動できるようになればいいなと思います。部活動は子どもたちにとって心の拠り所だと思います。クラスメイトとの交流も楽しいと思いますが、同じ方向を向いている仲間と一緒に、短い間でも部活動をするのはとても精神衛生上において良いと思いますし、密接を回避する方法としては、空いている教室の利用や閉校した学校の体育館を利用することもできると思いますので、子どもたちには活発に活動してほしいと思います。健康観察については、私生活においてゲームや携</p>

		<p>帯電話の長時間利用による睡眠不足や運動不足について、長期にわたって気をつけていく必要があると思います。子どもの心のケアについては、保護者の不安が子どもの不安にも繋がると思うので、保護者との連絡は密にして寄り添ってあげてほしいと思います。感染症対策について、感染が拡大し始めた当初は、先生方が早めに学校に行き、教室の机等を拭いているという話も聞きました。学童の家でも、子どもたちは開放的になるので、支援員さんたちも大変だったと思います。先生方の負担軽減のためにも、できることは子どもたちにも手伝ってもらう方向で感染防止対策が進むといいのではないかと思います。各施設の対策についても、記載の通りで十分だと思いますが、どの施設でも空気の流れがつかめないため、換気の面が心配だと思ふことがありました。教育委員会からの支援については、市からの就学援助等があり、困窮している学生たちは感謝していると思います。今後は援助も支援も継続しつつ、応募要項の見直しは必要だと思います。ほかの市町村で様々な事業が中止になる中、宮古市では可能な限り調整して事業を実施したことは、価値があることと思います。ワクチン接種の対応も早く、それにより少しでも安心した生活を送られたことと思います。行政の方々には心より感謝いたします。以上です。</p>
山本市長		はい、平井委員さんお願いします。
平井委員		<p>はい。橋本委員さんがおっしゃったように大学生の修学継続支援をしたことについては、多くの方が本当に助かったと思います。また、今は部活動の保護者の観戦のガイドラインがありますが、感染拡大当初は競技によって観戦基準のずれがありました。これにより混乱が発生し、現場の人たちは大変だったと思います。マスクの着用については、嫌悪感はある人もいますが、今後も継続が必要だと思います。非接触が当たり前になり、コミュニケーションの大切さがわかった2年だと改めて思いました。最後に市内の感染は抑えられていますので、市内だけでも交流試合を増やす取組が多くなれば良いと思います。以上です。</p>
山本市長		はい、杉本委員さんお願いします。
杉本委員		<p>はい。みなさんと重複しますが教職員のワクチンの優先接種は、非常にスピード感もあって素晴らしい取組だったと思います。オンライン学習については、オンライン学習を含めた学校のICT教育の推進に向け、環境の整備、ガイドラインの作成等が進められていくと思います。実際に運用していく上で、保護者は不安に感じていることもあると思います。そうしたなかで、今後はリモートやオンラインでの学習のシミュレーションも取り入れていかなければならない時期が来ると思います。当</p>

		<p>然、学校でも取り組まなければなりません、PTAとも相談しながら、家庭と学校の連携が必要になってくると思います。いざというときにスムーズに対応できる仕組みを作る必要があると思います。体育館の学校開放と同様に、小中学校にあるコンピューター室を長期休みに開放すれば生徒、家族の皆さんがコンピューターに触れる環境づくりになってくれると思います。コロナに関して、子どもたちの心のケアも重要だと思いますが、同じように教職員の先生方も、精神的ダメージを受けた方が少なからずいるのかなと思っております。子どもたちが充実した教育を受けるためにも、教職員の方々も充実した環境を整備する必要があると思います。子どもたちと同様に教職員の方々へのフォローもしていける、そんな環境づくりができればいいなと思っています。今後、学校での生活を通常に戻していくために、様々な準備等が必要になってくると思います。学校での行事の内容についてどのように決定するのか、何を基準に回答していくのか、いつになったら子どもたちが向かい合っ楽しい給食の時間を過ごせるのか、そういった部分も全校で足並みを揃えて動いていけるような体制づくりが必要になると思います。以上です。</p>
山本市長		はい、伊藤教育長お願いします。
伊藤教育長		<p>はい。先日の岩手県知事からの通知により、会食等の人数に制限がなくなりました。ワクチンの3回目の接種も予定どおり進むと思いますし、そのようにして社会的な免疫が高まっていくと思います。そのような状況下で、子どもたちに伝えるべき重要なことは、正しい知識を持つこと、落ち着いた行動をとること、ネットの利用における良識的な情報モラルをもう一度見直すことだと思います。それらは大人が見本を見せて、子どもたちにも徹底して指導すべきと思っていました。タブレットを利用した学習についてですが、タブレットは万能ではありません。あくまでも授業は紙の教科書をベースとした、ハイブリッドな形で進んでくのが理想的だと思います。学習することに関して、タブレットのみの使用と教科書のみの使用による学習の定着率は、教科書のみの使用の方が高い定着率になるという結果も出ています。お互いに良さを取りあいながら、ハイブリッドな形で進めたいと考えておりますので、各学校の柔軟な対応が必要になると思います。現在、生涯学習課では、年明けに成人式の開催を予定しています。室内での開催となるため、今まで以上に感染対策を徹底して行います。これまで、行事の開催などで学校はかなりの業務量を背負ってきたので、この機会に様々なものをスリム化しながら、新しい生活様式に順応したいと思います。以上です。</p>

	山本市長	はい、ありがとうございます。アフターコロナ、学校の在り方等を含めてご意見をいただきました。コロナウイルス感染症によって我々は感染症に対する知見が非常に増えました。今回のコロナウイルスについては、教育長と相談しながら対応しました。学校を閉鎖するのは簡単です。しかし、閉鎖中の子どもたちをどこで対応するのか。家庭で対応できるのか。家庭でできなければ子どもたちは学童の家に集まります。そのようにして子どもたちが大勢集まれば、結局は学校にいるのと変わらなくなります。今後も感染症を恐れて全て中止にするのではなく、その状況を見て冷静に判断しつつ、感染予防しながら対応していけば良いと思います。何でも抑制すると心を病んでしまいます。親が病んでしまえば子どもも病みますし、逆もまた然りです。感染拡大の初期段階で、国が学校を休校にしろと言った時に、教育長からは「家庭の混乱を招くので、最初の1週間は午前授業にし、まずは給食をちゃんと子どもたちに食べさせましょう。」という話があり、そのように対応しました。私は正解だったと思います。いきなり休校した所はみんな大変だったと思います。宮古市は冷静に考えて判断し、準備をして対応し、今後もしっかり見極めていきます。感染症専門家の意見や、ネット、メディアでの発言に惑わされないように、今後も対応していきます。そして、この経験を生かしながら今後の教育活動をしっかりしたいと思います。
5 その他	山本市長	ここまでの話について、傍聴している方を含め、皆様からご質問はありませんか。よろしいでしょうか。それでは以上でございます。進行を教育部長にお返しします。
6 閉会	菊地教育部長	はい、皆様ありがとうございました。様々なご意見を頂戴いたしましたので、これらをもう一度しっかり確認をしながら、今後の教育に役立てさせていただきたいと思います。それでは以上をもちまして令和3年度第1回宮古市総務教育会議を終了させていただきます。大変お疲れさまでございました。